

事務事業評価シート

(H.28)No.	1189	(H.27)No.	1189
-----------	------	-----------	------

事務事業名	教育フォーラム事業		
担当部局名	担当室名	室長名	
教育委員会事務局	教育総務室	内匠 勝也	

会計区分	事業コード	463601
一般会計	(中事業名)※予算書事業名	
款 教育費	教育フォーラム事業	
項 教育総務費	(小事業名)	
目 教育振興費	教育フォーラム事業	

1. 事務事業の位置付け

総合計画	政策	4	心豊かな教育と文化に包まれた、ゆとりある暮らし
	基本施策	1	生きる力をはぐくむ教育の充実
	施策	1	学校教育
	小施策	2	義務教育
重点施策コード			

2. 事務事業の概要

事業目的(めざす効果)
教育フォーラムの開催により、教育関係者、保護者、地域住民が一堂に会し、教育活動の実践・研究の成果発表の場、または交流の場とし、「名張市のめざす教育」「名張市のめざす子ども像」を共通認識し、市民みんなで子どもを育てるしくみを構築します。
事業内容
教育フォーラムの実施

3. 総合計画の目標達成に向けた主な事業の実績・計画

	H.27年度(事業量・取組実績)	H.28年度(事業量・取組計画)	H.29年度(事業計画)	H.30年度(事業計画)	H.31年度(事業計画)
主な事業の実績・計画	11/14 教育フォーラム「小中一貫教育とは？」開催 ・講演会「小中一貫教育の意義と可能性」 ・教育ビジョン進捗状況報告 ・教育実践発表(桔梗が丘東小学校、箕曲小学校、北中学校校区) ・本の帯コンクール、中学生のメッセージ表彰 ・体験コーナー 等	教育フォーラム 12月開催予定 報償費、需用費、役員費、委託料	教育フォーラム開催	教育フォーラム開催	教育フォーラム開催

	H.27年度(決算見込)	H.28年度(作成時予算額)	H.29年度(計画予算)	H.30年度(計画予算)	H.31年度(計画予算)
①直接事業費	224千円	197千円	250千円	250千円	250千円
内訳(千円)					
国・県支出金					
地方債					
その他()					
一般財源	(0) 224	197	250	250	250
人工数					
職員	0.55人	0.44人	0.55人	0.55人	0.55人
臨時職員等	0.10人	0.10人	0.10人	0.10人	0.10人
②概算人件費	(0千円) 4,350千円	3,514千円	4,350千円	4,350千円	4,350千円
①+②総事業費	(0千円) 4,574千円	3,711千円	4,600千円	4,600千円	4,600千円

4. 担当室による事務事業の点検 (*点検等による成果向上や見直しが困難な事業(法令等による義務的経費、災害復旧等緊急事業など)は点検対象外)

考察(H.27年度の取組評価、課題)	今後の対応方針(課題解決への取組、工夫・改善の内容)
平成27年度は「小中一貫教育とは？」と題して、各種主体の参画により、多数の体験展示コーナーを設け、子どもから大人まで皆が集えるフォーラムとしました。教育活動の実践・研究の成果発表、子どもたちの未来について市民ぐるみで考える機会や学ぶ機会を提供する場という観点から、約600名の参加者があったことは一定の成果が得られたと考えます。	フォーラムの開催目的やテーマを明確にし、必要な財源を確保しながら、継続的に市民や保護者の皆様に参画いただき、教育活動の成果や課題等を共有できる内容となるよう工夫が必要です。また、フォーラム開催の周知にさらに力を入れて来場者数を増やすようにします。

点検項目	内容(施策達成への貢献内容、連携・協働の実践・検討内容)
(1) 事業内容や取組成果は、総合計画の施策達成に貢献しているか B(いずれかの施策指標達成に貢献又は基本方針達成に貢献)	本事業は、家庭、地域、学校が十分に連携して教育活動や学校運営に取り組み、魅力ある地域に開かれた学校づくりを進めるために必要な事業のひとつとなっています。
(2) 地域づくり組織、市民活動団体等との連携・協働は図れないか 実践している(※実践内容を記載→)	開会行事や体験展示等に、地域やPTA、各種団体の皆様に参画いただいています。

5. 今後の方向性(担当室による内部評価)

【選択肢】 継続(改善)、継続(現行)、継続(拡大)、継続(縮小)、統合検討、休止検討、廃止検討、事業完了(予定含む)	継続(現行)
具体的な見直し内容・検討内容、継続の理由	6. 事務事業の取組に関する主な市の計画 第二次名張市子ども教育ビジョン
教育フォーラムは、教育関係者、保護者、地域住民など、子どもの教育に関わるすべての人が一堂に会して、成果の発表や課題を互いに交流する中で学びあう場として位置づけていることから、成果や課題を踏まえた工夫・改善を重ね、継続していく必要があります。	